平成３０年度事業計画

1．文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行う。また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進めるほか、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告を行う。

科学研究費補助金

当研究所に所属する研究員は科学研究費補助金の出願が可能であり、積極的に申請して文化財に関する研究活動を進めている。科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。また、補助事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、主要な科学研究費については直接経費の３０％が科学研究費間接経費としてその所属機関に措置される。平成３０年度の科学研究費補助金は、継続研究課題として８件が内定しており、新規研究課題として１４件を現在申請中で、審査結果を待っている。

(1) 継続研究課題

基盤研究（B）補助金

「出土木製品マイクロ波加熱凍結乾燥処理法の実用化研究」
平成 29～32 年度　川本耕三　13,700 千円（研究期間合計額）

「海外文化財輸送技術との比較による日本の文化財輸送技術の発展に関する研究」
平成 29～32 年度　雨森久晃　11,600 千円（研究期間合計額）

基盤研究（B）一般

「日本中世における葬送墓制の総括的研究」
平成 26～30 年度　狭川真一　11,900 千円（研究期間合計額）

基盤研究（C）一般

「超微細気泡（ナノバブル）を用いた保存処理方法の構築」
平成 28～30 年度　山田卓司　3,700 千円（研究期間合計額）

「疑似出土木材の調製」
平成 29～31 年度　山口繁生　3,400 千円（研究期間合計額）

挑戦的萌芽研究

「ルビジウム-ストロンチウム放射壊変系による出土琥珀の産地推定」
平成 28～30 年度　植田直見　2,700 千円（研究期間合計額）

若手研究（B）

「錆情報に基づく戦後復興期消滅古墳副葬品配列の復元研究」
平成 28～30 年度　初村武寛　1,700 千円（研究期間合計額）

「施釉陶器色調計測の基礎的研究」
平成 28～30 年度　田中由理　1,400 千円（研究期間合計額）

(2) 新規申請中課題（計 14 件）

基盤研究（A）一般	1 件
基盤研究（B）一般	3 件
基盤研究（C）一般	6 件
挑戦的萌芽研究	1 件
若手研究（B）	3 件

２．文化財の調査・整理事業

文化財調査修復研究グループ

人文科学担当

南都十輪院（奈良市）	南都十輪院歴史資料調査および寺史編纂事業
総本山長谷寺（奈良県桜井市）	総本山長谷寺文化財等保存調査整理事業
大阪府泉南市	泉南市文化財総合調査
愛媛県	札所寺院の史跡指定に係る文化財詳細調査

平成３０年度の南都十輪院歴史資料調査および寺史編纂事業は石造品調査等を行う。

総本山長谷寺文化財等保存調査事業は平成３０年度も継続して実施する。

四天王寺境内所在石造物調査業務は４年度目を迎え、境内墓地などの調査を行う。

１４年度目となる大阪府泉南市の文化財総合調査は、平成３０年度も引き続き実施する見込みである。

世界文化遺産指定推進のための四国遍路札所寺院の文化財詳細調査業務は、愛媛県で今年度も継続して行う見込みである。

考古学担当

奈良県橿原市	藤原京左京二条四坊、出合・膳夫遺跡報告書作成業務
奈良県橿原市	藤原京右京十条三・四坊発掘調査・整理報告業務
京都府京都市	平安京跡・烏丸遺跡報告書作成業務
京都府京都市	平安京跡・烏丸綾小路遺跡発掘調査報告書作成業務
和歌山県高野町	奥之院石塔調査にかかわる基礎台帳整理事業
和歌山県有田川町	湯浅氏関連城郭群調査にかかわる石造物調査業務

京都府平安京跡・烏丸綾小路遺跡は平安京六条二坊十二町の発掘調査および報告書の作成業務である。一帯は北面武士の京内拠点に近く、成果が期待できる。

藤原京左京二条四坊、出合・膳夫遺跡報告書作成業務および平安京跡・烏丸遺跡報告書作成業務は、平成２９年度に発掘調査を行った遺跡に関する報告書の作成作業である。特に平安京跡・烏丸遺跡は我が国二例目のガラス製水滴が出土するなど重要遺跡であり、注目が集まっている。

和歌山県高野町奥之院石塔調査は、奥之院史蹟管理のための基礎調査で、平成２９年度に石塔台帳の校正作業を行ったが、平成３０年度は確認調査及び報告書作成を行う。

和歌山県有田川町石造物調査は、湯浅氏関連城郭群の国指定史跡登録を目指した調査の一環である。平成３０年度は報告書作成に重点を置く予定である。

記録資料担当

千葉県佐倉市　国立歴史民俗博物館　　所蔵資料の状態調査

平成１８年度より継続している国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査は１３年目を迎える。

歴博内では館内業務の位置付けを検討しているが、平成３０年度は引き続き現地調査員を駐在させての委託業務として状態調査を継続する。調査対象資料は「裸潜水漁撈及び蛸漁関係用具」、「大正・昭和期消費生活関係資料」が予定されている。

保存科学研究グループ

近つ飛鳥博物館（大阪府太子町）　大修羅の保存状態調査

文化財を後世に伝えるには、保存処理後も定期的に資料の形状や表面状態などを調査することが必要である。同時に資料の劣化の進行を抑えるためには収蔵環境が適切であるかの調査も必要である。さらにそれらの結果から今後の改善策を提案している。

舞鶴市引き揚げ記念館（京都府舞鶴市）　博物館展示・収蔵環境調査

ユネスコ世界記憶遺産にシベリア抑留関連資料の登録がされたことに伴い、引き揚げ記念館の展示・収蔵環境の調査を行い、改善計画の策定を図る。

奈良市補助金事業　仏教民俗資料の収集調査

奈良市内所在石造文化財の調査（８）

奈良市内における石造物の悉皆調査は１９８９年に報告書が刊行され、重要な石塔資料が多数報告された。これらの石造文化財の詳細な調査は文化財保護や歴史研究に重要な素材を提供するが、個別具体的な調査が実施されたものは少ない。

平成３０年度も平成２９年度に引き続き、奈良市内に所在する古式の宝篋印塔や五輪塔などについて詳細な調査を行い、情報開示を行おうとするものである。

調査・研究の成果については、『元興寺文化財研究所研究報告』に掲載し、奈良県内の教育委員会、図書館、博物館、大学をはじめとする全国の文化財関連機関に配布する。

３．文化財の分析事業

保存科学研究グループ

東京都港区湖雲寺跡（東京都港区）出土遺物の分析

文化財を自然科学的手法で分析することによって、その材質や構造等を明らかにし、産地や年代等を推定することができる。資料の顕微鏡観察、金属や顔料の蛍光Ｘ線分析、漆や繊維の赤外分光分析等を行う。

文化財調査修復研究グループ

大阪府松原市　立部遺跡出土遺物科学分析業務委託

立部遺跡出土蔵骨器に収められていた火葬骨について、年代測定、食性分析、人類学的分析を行い、併せて蔵骨器の産地同定を行う。

4．文化財の保存修復事業

文化財調査修復研究グループ

伝世資料担当

石川県能登町	重要有形民俗文化財能登内浦のドブネ保存修復業務
鎌田共済会郷土博物館(香川県坂出市)	重要文化財「久米通賢(くめみちたか)関係資料」の保存修復
岩手県陸前高田市	被災国登録有形民俗文化財等修理業務
浅間寺(せんげんじ)（兵庫県養父市）	十二神将像の修復

能登町は、平成２９年度で新収蔵展示施設に移動したドブネ３隻の内１隻の現地修復作業及び船具類の研究所での修復などの事業を、平成３０年度から３カ年にかけて行なう予定である。

香川県坂出市に所在する鎌田共済会郷土博物館所蔵の重要文化財「久米通賢関係資料」９点の保存修復を行う予定である。

陸前高田市は、平成２９年度に引き続き３０年度も、東日本大震災による被災資料陸前高田市立博物館所蔵の国登録漁撈用具及び収蔵資料について修理を行う予定である。

室町期の造像で養父市指定文化財の浅間寺所蔵十二神将像を引き続き修復する予定である。

記録資料担当

京都府京都市	京都市参事会文書の修復
大阪府河内長野市	図書、引き札などの修復
他、地方公共団体	古文書、絵地図類の修復

文書・絵図類等の紙資料の修復事業は漉嵌(すきはめ)法、繕い、裏打ちなどの技法を用い、資料の原形を損なわない修復を原則として進めている。

例年各所の修復を実施しているが、全国地方公共団体の修復に関する入札において、古文書や絵図面の修復業務に参入し仕事の枠を広げていく視点で進めている。

木製品担当

広島県立歴史博物館（福山市）	重要文化財草戸千軒町(くさどせんげんちょう)遺跡出土遺物の保存修理
福井県立若狭歴史博物館（小浜市）	重要文化財鳥浜貝塚(とりはまかいづか)出土品の保存修理
熊本県熊本市	上代町(かみだいまち)遺跡群出土馬埋葬土坑の保存処理
石川県能登町	真脇(まわき)遺跡出土遺物の保存処理
熊本県	曽畑貝塚(そばたかいづか)出土植物性遺物保存処理

重要文化財の修理としては、広島県福山市・草戸千軒町遺跡（中世）出土遺物と福井県若狭町・鳥浜貝塚（縄文時代前期）出土品の保存修理を行なう予定である。

平成２９年度から保存処理を行なっている熊本市・上代町遺跡群出土の馬埋葬土坑（古墳時代）や能登町・真脇遺跡（縄文時代前期～晩期）出土遺物の保存処理を引き続きおこなう予定である。また、平成３年度から平成６年度にわたり保存処理を行なった熊本県・曽畑貝塚（縄文時代前期）出土植物性遺物の再修理を実施する予定である。

金属製品担当

文化庁（島根県立古代出雲文化博物館保管）	国宝神庭荒神谷遺跡出土青銅製品の保存修理
文化庁（兵庫県立歴史博物館保管）	重要文化財兵庫県箕谷2号墳出土品保存修理
宗像大社（福岡県宗像市）	国宝沖ノ島祭祀遺跡出土金属製品の保存修理
茨城県土浦市	重要文化財武者塚古墳出土品保存台作製
福岡県行橋市	重要文化財稲堂古墳群出土品保存修理

国宝の保存修理として、平成２２年度から８カ年事業で行った島根県神庭荒神谷遺跡（弥生時代）出土銅剣の保存修理が２期目に入る。

宗像大社所蔵・国宝沖ノ島祭祀遺跡（古墳時代から奈良時代）出土金属製品の保存修理は、平成２７年度からの継続事業の最終年度となる。

重要文化財では、平成２７年度から行っている茨城県土浦市・武者塚古墳（古墳時代前期）出土品の保存台作製を、平成２８年度から行っている福岡県行橋市・稲堂古墳群（古墳時代）出土品保存修理を引き続き予定している。

他の重要文化財の保存修理としては、兵庫県養父市・箕谷２号墳出土品（古墳時代）出土金属製品の修理、大阪府豊中市・摂津豊中大塚古墳出土品（古墳時代）の修理と安定台の製作を予定している。

土器・３Ｄ担当

山形県	重要文化財山形県水木田遺跡出土品保存修理
奈良県立橿原考古学研究所	重要文化財奈良県メスリ山古墳出土品保存修理
常陸大宮市	重要文化財茨城県泉坂下遺跡出土品保存修理

国の指定文化財の修理としては、昨年度から引き続いて重要文化財山形県水木田遺跡出土品の保存修理を予定している。また、重要文化財奈良県メスリ山古墳出土の全高２４０センチを超える大型有段口縁円筒埴輪の保存修理を平成３１年度にかけて予定している。他に、重要文化財茨城県泉坂下遺跡出土品の保存修理を予定している。

その他に、株式会社乃村工藝社より受託し、愛知県志段味大塚古墳出土の甲冑・馬具・大刀などの模造品製作し、名古屋市の展示施設に納める予定である。また、昨年度から引き続いて兵庫県明石市柿本神社所蔵の森狙仙筆「猿の図」のデジタル高精細複製を製作予定である。

また、当室では三次元計測等の事業も継続して行っており、平成３０年度は昨年度から引き続き国宝島根県荒神谷遺跡出土品の三次元計測及び保管台の改修事業を実施する予定である。

５．研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

春季企画展（元興寺創建千三百年記念企画展）
『佛法元興－法興寺の遺産・元興寺への道程－』
※真言律宗元興寺、華厳宗元興寺、真言律宗小塔院と共催
開催期間　平成３０年４月２８日(土)～５月２７日(日)
開催場所　真言律宗元興寺法輪館

今年は、元興寺が平城京に創建されてから１３００年となる。
元興寺の前身である法興寺（飛鳥寺）は「仏法元興の場 聖教最初の地」として聖徳太子や推古天皇による仏法興隆の中心となった日本で最も古い本格的な寺院である。
本展では、元興寺創建の前史として、法興寺の実像に出土遺物などから迫るとともに、関連寺院をはじめ各地に残された法興寺にまつわる有形無形の文化遺産を紹介し、元興寺創建への道程を展望する。

関連シンポジウム「仏法元興―法興寺創建とその時代」
開 催 日　平成３０年４月２２日(日)
開催場所　ならまちセンター　市民ホール
文献史学、考古学、建築史学の各分野の第一線の研究者を招き、法興寺の創建と展開、そして元興寺への道程を多角的に検討し、その歴史的意義を考える。
講　　演　『法興寺の造営』　東野治之
（文化功労者・滴翠美術館館長、奈良大学名誉教授）
『飛鳥の“まちづくり”は法興寺創建から始まった』
黒崎　直(大阪府立弥生文化博物館館長、当研究所評議員)
『法興寺と飛鳥時代の建築』　箱崎和久(奈良文化財研究所遺構研究室長)
パネルディスカッション　東野治之、黒崎　直、箱崎和久
司　会　狭川真一（当研究所副所長）

関連特別講演会「法興寺の遺産・元興寺への道程」
開 催 日　平成３０年５月６日(日)
開催場所　明日香村立中央公民館
特別講演　『法興寺の光と影』　里中満智子（漫画家・大阪芸術大学教授）
講　　演　『法興寺創建』　相原嘉之(明日香村教育委員会文化財課長)
講　　演　『元興寺創建』　狭川真一(当研究所副所長)
座 談 会　里中満智子、森川裕一(明日香村長)、植島實照(飛鳥寺住職)、辻村泰善
コーディネーター　柳林修（元読売新聞社編集委員）

同時開催 飛鳥寺「元興寺 古瓦・古材 千三百年ぶりの里帰り」展
開催期間　平成３０年４月２８(日)～５月２７日(日)
開催場所　飛鳥寺　宝物展示室
法興寺の移転とともに１３００年前に元興寺に移され、今日に伝えられてきた古瓦と古材が、ふるさと飛鳥寺に里帰りし、本堂宝物展示室で展観される。

秋季特別展

『大元興寺展』（元興寺創建千三百年記念特別展）

※真言律宗元興寺、華厳宗元興寺、真言律宗小塔院と共催

開催期間　平成３０年９月１３日(木)～１１月１１日(日)

開催場所　元興寺法輪館

元興寺創建千三百年慶賛行事の一環として、関連文化財を一堂に集め、元興寺の歴史を概観する展覧会を開催する。特別展では、元興寺の創建からの歴史を総合的にとりあげる。

元興寺は、養老２年(718)に飛鳥から移されて国家的寺院として建立された後、中世を通じて全体として寺勢は衰えていった。しかし大伽藍には「ならまち」につながる都市奈良が形成され、元興寺の一部は都市寺院として活況を呈し、近世、近代へと法灯を伝えてきた。

本展では、元興寺ゆかりの寺院や諸機関の協力のもと、出土遺物や彫刻、絵画、古文書などの各種資料によって、古代は国家的寺院として、そして中世以降は都市奈良の中で存立してきた元興寺の歴史を振り返る。

関連講演会・対談「未来に受け継ぐ、元興寺の信仰・伝承・文化財」（仮）

開 催 日　平成３０年９月１５日(土)

開催場所　ならまちセンター市民ホール

元興寺は、創建されてから平城京、都市奈良の中で存立し、その旧寺域は今日の「ならまち」の土台にもなった。平成１０年(1998)には「古都奈良の文化財」の一つとして世界文化遺産に登録され、その価値は広く知られるに至っている。創建千三百年を迎え、いま改めて未来に継承するべき元興寺の歴史的、文化的価値を語り合う。

第１部「ガゴゼの伝承」

講　演　逢香（妖怪書家）

鼎　談　逢香、辻村泰善、角南聡一郎（当研究所総括研究員）

第２部「元興寺の信仰と文化財」

講　演　西山厚（帝塚山大学教授）

対　談　西山厚、辻村泰善

関連シンポジウム「古代・中世の元興寺」

開 催 日　平成３０年９月２９日(土)

開催場所　ならまちセンター市民ホール

元興寺は、養老２年(718)年に創建されて以来、国家的寺院、そして中世の都市寺院として個性的な歴史をたどってきた。シンポジウムでは、古代元興寺の創建、展開と、中世寺院への変容について、今日の寺院史研究を踏まえて、文献史学、考古学双方の視角からその実態と位置づけを探る。

講　　演　古代史　　東野治之（文化功労者、滴翠美術館館長・奈良大学名誉教授）

考古学・古代　上原真人（辰馬考古資料館館長・京都大学名誉教授）

中世史　　横内裕人（京都府立大学教授）

質疑応答　東野治之、横内裕人、上原真人

コーディネーター　藤澤典彦（当研究所評議員・元大阪大谷大学教授）

文化講座の開催

実践文化財学

講座編「元興寺創建千三百年　その歴史と寺宝」

創建千三百年を迎えた元興寺の歴史と所蔵文化財についての連続講座を開催する。

元興寺文化財研究所が創立以来半世紀にわたって行ってきた元興寺の歴史や文化財に関する人文、考古、保存科学などの各分野からの多面的調査や研究の蓄積と最新の成果を、研究所研究員がわかりやすく解説する。

開催場所　総合文化財センター

第１回	４月１１日	「飛鳥寺塔心礎跡出土品が語る古代史」	塚本敏夫
第２回	５月　９日	「仏法東漸と飛鳥寺・元興寺の仏教」	三宅徹誠
第３回	６月１３日	「考古学からみた飛鳥寺と古代元興寺」	村田裕介
第４回	７月１１日	「元興寺五重小塔の性格」	狭川真一
第５回	８月　８日	「板絵智光曼荼羅の文化財科学」	高橋平明・植田直見・韓希姃
第６回	９月１２日	「考古学からみた中世元興寺」	坂本俊
第７回	１０月１０日	「紙製地蔵菩薩立像（おかみさん地蔵）が語る 江戸時代の庶民信仰―文化財修復からの発見―」	雨森久晃・高橋平明
第８回	１１月１４日	「江戸時代の元興寺と奈良町」	服部光真
第９回	１２月１２日	「元興寺をめぐる教育と学術」	角南聡一郎
		「元興寺獅子国形仏足石とアジアの仏足信仰」	佐藤亜聖

（４月～１２月まで毎月第２水曜日に開催）

元興寺ならまち文化講座

「奈良の古社寺の考古学（全８回）」

今年度は、元興寺創建千三百年を見据えて、奈良の古社寺を題材に新しい所見を交えて講演する。古代の様相だけでなく、古代寺院の中世における姿についても言及する。

講　　師　狭川真一（当研究所副所長）

開催場所　元興寺文化財研究所 本部３階 研修室

第１回	６月　８日	「平城京と社寺の配置―各社寺の創建事情を整理する―」
第２回	７月１３日	「元興寺禅室「屋根裏探検」と古材の語り」
第３回	８月１０日	「興福寺創建 ―不比等はなぜあの場所に建てたのか？―」
第４回	９月１４日	「春日大社の神域と古墳」
第５回	１１月　９日	「頭塔の考古学 ―仏塔としての頭塔を考える―」
第６回	１２月１４日	「東大寺復興 ―宋人石工・伊行末の生涯―」
第７回	１月１１日	「唐招提寺鑑真供養塔と奈良の古式宝篋印塔」
第８回	２月　８日	「長谷寺の前身寺院 ―飯降石薬師磨崖仏と銅板法華経―」

※１０月を除く６月から２月まで月１回、金曜日に開催

『発掘された日本列島2018』展

平成２０年度から受託している文化庁と開催各館とが主催する『発掘された日本列島』展の開催と運営に関する業務の企画競争による公募に企画提案書を提出している。

平成３０年度は、新発見考古速報展と特集「装飾古墳を発掘する！」の２部構成で、岩手県から鹿児島県までの２４遺跡から出土した資料約６００点が出陳およびパネル紹介される。

特集では、東日本大震災や熊本地震により装飾古墳が被災を受けたことを受け、装飾古墳の調査・保護の事例を紹介する。

業務内容は、本展に関わる出陳物の集荷・納品に係る輸送、パンフレット・リーフレットなどの印刷・発送、出陳物の点検・展示・撤収、展示パネル・キャプションのほか関連資料の管理、開催予定各館との調整など多岐にわたる。

開催館は平成２３年度以降５館で定着し、平成３０年度は次の５館で開催が予定されている。

東京都江戸東京博物館	（６月２日～７月２２日）
石川県立歴史博物館	（８月４日～９月９日）
岐阜市歴史博物館	（９月２２日～１０月３１日）
広島県立歴史博物館	（１１月１４日～１２月２４日）
川崎市市民ミュージアム	（平成３１年１月８日～２月１７日）

６．報告書、書籍等の刊行

公益財団法人畠山文化財団助成事業

『元興寺文化財研究所研究報告２０１８』（１，３００冊）の刊行

公益財団法人 荏原 畠山記念文化財団（元（公財）畠山文化財団）からの助成金を受けて毎年刊行している。

７．体験活動

春期企画展関連企画

バスツアー「飛鳥から奈良へ―瓦と材木の道をたどる」

開 催 日　平成３０年４月１５日（日）

日本最初の仏教聖地法興寺（飛鳥寺）から、瓦などの建築部材を平城元興寺へ移動した手段を、飛鳥川の水運を利用したと想定して、バスで各地のゆかりの史跡に立ち寄りながら元興寺に向かう。

途中、秦楽寺では、秦河勝が聖徳太子から賜ったと伝えられている「千手観音立像」や「秦河勝像」を特別拝観する予定である。

ウォーキング「飛鳥に残りし大寺を訪ねて」

開 催 日　平成３０年５月６日（日）

飛鳥寺から出発し、周辺遺跡、川原寺などを巡って、当日開催される特別講演会会場の明日香村中央公民館に向かうウォーキングツアーを実施する。

「元興寺国宝禅室　屋根裏探検－日本最古の現役建築部材の公開－」

開催日【前期】６月１６日(土)～７月１６日(日)

【後期】１０月１３日(土)～１１月１１日(日)(予定)

世界遺産・元興寺の極楽堂と禅室は、飛鳥寺から運ばれた部材を残す貴重な建築物であるが、その多くは屋根裏に上らないと見学できないものであり、通常は一般に公開することができない。

平成２２年に平城遷都１３００年事業として実施し、大きな反響のあった禅室「屋根裏探検」を元興寺創建千三百年記念事業として８年ぶりに再度実施する。

飛鳥・奈良時代はもとより、平安・鎌倉時代から昭和（戦時中）の修理によって様々な部材が組み合わさり残っている古建築の生きた歴史の残る禅室の屋根裏の内部を、ヘルメットをかぶり特設階段を登って、懐中電灯を片手に探検する。

秋季特別展関連企画

実践文化財学　現地学習編「歴史ウォーキングイベント」

研究所研究員が講師となり、各テーマに沿って「ならまち」を歩く。

「古代・中世の元興寺を歩く」　期　日　１０月１４日(日)

「元興寺とならまちの伝承を歩く」　期　日　１０月２１日(日)

「元興寺ゆかりの寺社をめぐる」　期　日　１０月２８日(日)

施設見学等

研究、調査成果を社会に還元し、文化財の保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として、博物館実習、職場体験、施設見学を受け入れる。

総合文化財センターにおいては、定期的に施設見学会を開催する。なお、団体見学については、日程を調整しながら受託業務に支障の無い範囲で随時受け入れる。

個人見学会予定日

平成３０年７月１１日、８月８日、９月１２日、１１月１４日、１２月１２日

平成３１年１月９日、２月１３日　※いずれも水曜日

８．その他